

第5次総合計画 前期基本計画 施策評価シート

施策名	交流がひろがる拠点の形成		施策番号	24
主担当部署	部名	部長名		
	都市部市街地整備担当	高尾 知幸		

計 画 (Plan)

総合計画体系	活力	まちづくり目標	3	個性豊かで活力あるまち
		基本政策	7	都市の活力を生み出す魅力あるまちづくり
		施策展開の方向	1	都市の骨格を支えるまちをつくる
施策展開の方向 (内容)	<p>新東名高速道路や国道246号バイパスの開通に伴う広域的な交通利便性の向上や充実した医療環境など、地域の特性、優位性を生かした産業基盤の整備や積極的な企業誘致を進め、新たな都市の活力を創造するまちをつくります。</p> <p>伊勢原駅北口周辺をはじめとする本市の玄関口にふさわしい中心市街地の整備や商店街の活性化など、民間活力を生かした魅力あるまちをつくります。</p>			
施策内容	<p>伊勢原駅北口周辺地区における街路や駅前広場などの市街地整備を推進するとともに、民間活動の誘発効果を高め、商業・業務の集積など中心市街地としてふさわしい秩序ある土地利用を促進し、通勤通学者、買い物客、観光客など多くの人が行き交い、賑わいと活力のある交流拠点の整備を進めます。</p>			
目標とする状態	伊勢原駅周辺の市街地整備が進み、多くの人が行き交い、まちが賑わっています。			
目標の達成度を測る指標	【指標名】	区分		
		【当初値】	【目標値】	
	街なか南北往来者数	9,400人/14h	10,000人/14h	
	都市計画道路伊勢原駅前線の用地取得の割合	28%	49%	
施策を構成する「主な事業」	主な事業	事業の概要		
	伊勢原駅北口周辺地区整備事業	市の玄関口である伊勢原駅北口周辺地区を整備し、街路や駅前広場など交通の結節点機能の向上と、中心市街地の賑わいの創出・再生を図ります。		



事業実施(Do)へ

施策実施 (D○)

指標の達成状況	【指標名】	当初値	目標値	目標の方向	実績・見込(下段:達成率)			
					H25	H26	H27	H29見込
	街なか南北往来者数	9,400人/14h	10,000人/14h	↗	—	—	—	10,000人
都市計画道路伊勢原駅前線の用地取得の割合	28%	49%	↗	28%	28%	34%	46%	
					57.1%	57.1%	69.4%	93.9%

コスト	年度	H25年度 実績額		H26年度 実績額		H27年度 実績額		H28年度 予算額		H29年度 計画額	
	事業費合計(a)	2,803	千円	2,071	千円	240,528	千円	356,407	千円	100,312	千円
	人件費合計(b)	7,140	千円	18,216	千円	21,552	千円	21,552	千円	21,552	千円
	トータルコスト(a)+(b)	9,943	千円	20,287	千円	262,080	千円	377,959	千円	121,864	千円

市民意識	項目		平成27年度		満足度と重要度の相関図				その他の市民ニーズ、意見		
	満足度	施策の値	-0.31		↑ 重要度 ↓	A	B	D	C	A 優先的課題 B ニーズ充足 C 選択的課題 D 現状維持	○伊勢原駅北口の整備を望む(期待、早急、強力) 拠点:観光の玄関口としての整備 まち:駅周辺の賑わいの再生 機能:交通結節点としてのロータリー整備 景観:老朽化した建物の整備 ○提案 方法:デベロッパーによる開発を進めるとよい 飲食店が少ないので連帯して出店するような仕組みを 通過点でなく、お金を落とせる仕組みの構築を 施設:観光客も市民(老人も)気持ちよく過ごせる空間・娯楽施設(温泉等)がほしい
		平均値	0.32								
	重要度	施策の値	1.12								
平均値		1.20									

0.32

■施策を構成する「主な事業」の目標達成状況

NO.	事業番号	事業名	事業指標	当初値	H27年度目標	H27年度実績	目標達成状況	所属名
1	24-101	伊勢原駅北口周辺地区整備事業	都市計画道路伊勢原駅前線の用地取得の割合	28%	35%	34%	○	都市整備課
2								
3								
4								
5								
6								
7								

■施策を構成する「主な事業」の平成28年度評価結果(平成27年度事業分)

NO.	事業番号	事業名	進捗状況	実施水準	有効性	効率性	今後の方向性	所属名
1	24-101	伊勢原駅北口周辺地区整備事業	B	C	A	A	A	都市整備課
2								
3								
4								
5								
6								
7								

↓ 評価 (Check) へ

評 価 (Check)

指標(施策の目標)の達成度評価 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 既に達成している(A) <input checked="" type="radio"/> 順調に進捗している(B) <input type="radio"/> 遅れているが達成する見込み(C) <input type="radio"/> 遅れており達成が見込まれない(D)	B	左記判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢原駅北口周辺地区の交通環境の段階的な改善を図るため、都市計画道路の延伸部の用地を先行取得としていたが、対象地を路線バスの暫定ロータリー予定地に変更したため、達成値も変更となった。 ・しかしながら、バスの転回機能が確保されることにより、交通環境を改善していく目的は達成しているものと考える。
「目標とする状態」に向けた取組手法の有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い(A) <input type="radio"/> 普通(B) <input type="radio"/> 低い(C)	A	取組による成果	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは、区域全体の事業を成立させるには時間を要してきたため、取組手法としては、出来るところから段階的に整備を進めることとした。 ・都市計画道路の用地先行取得により、長年停滞した現場の動きを見せることができ、あわせて、具体的な土地利用イメージの提案などにより、関係権利者の事業に対する機運も高まりつつある。 ・この用地先行取得が伊勢原駅北口周辺整備に向けた権利者意識を高める有効な取組となった。
市民意識の反映 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 反映している(A) <input type="radio"/> 概ね反映している(B) <input checked="" type="radio"/> 反映できていない(C)	C	左記判断理由	<ul style="list-style-type: none"> ・市民からは、観光など市の玄関口として、早期整備を強く望まれている。 都市計画道路の用地先行取得は進めているものの、基盤整備については事業実施までには至っていない。 ・これまで、関係権利者と意見交換を重ね、土地利用の考え方が示されたので、今後は、この事業化に向けて、街区ごとに土地利用計画をまとめ、本施策の更なる推進が必要であると考えます。
施策を取り巻く環境変化	平成27年に入り、小田急ロマンスカーの伊勢原駅常時停車や「大山詣り」の「日本遺産」の認定が実現し、観光客や近隣市町村からの伊勢原への来訪が増加することが期待される。このような新たな展開により、市の玄関口の整備に対する要望もさらに増えることが想定され、「伊勢原駅周辺地区整備事業」が多くの人が行き交うまちを形成する上で重要な取組と考える。			
施策推進上の課題	駅北口周辺地区の基盤整備を推進していくには、権利者の合意形成は最重要課題であると考えます。そのためにも、現在、取り組んでいる都市計画道路伊勢原駅前線の用地先行取得を進め、段階的に駅前の交通環境を改善していくことが必要である。今後も用地先行取得を進めながら、市と権利者が一体となり、街区ごとの土地利用計画を作成し、権利者の機運を更に高め、早期事業化を目指すことが必要である。			

↓ 施策の改善 (Action)へ

施策の方向性 (Action)

今後の方向性の判断	取組の方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 拡大して実施 <input type="radio"/> 継続実施 <input type="radio"/> 縮小して実施 <input type="radio"/> 抜本的見直し	左記判断理由	<p>引き続き、都市計画道路伊勢原駅前線の用地先行取得を進め、喫緊の課題に対応すべく交通環境の改善を図っていく。</p> <p>さらに、市の玄関口に相応しい市街地整備を実施するため、街区ごとの整備計画を地元と協働で作成し、必要な手続き等を進めていく。</p>
	施策の方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 見直し	左記判断理由	<p>伊勢原駅北口周辺地区整備の要望が多数寄せられていることを受け止め、まずは、駅北口の交通環境を段階的に改善していきながら、中心市街地としてふさわしい秩序ある土地利用を促進していく。</p>